

Influence of the Great East Japan Earthquake and the Fukushima Daiichi nuclear disaster on the birth weight of newborns in Fukushima Prefecture: Fukushima Health Management Survey

福島県における新生児の出生体重に及ぼす東日本大震災と
福島第一原子力発電所事故の影響：福島県「県民健康調査」

安田俊

福島県立医科大学医学部産科婦人科学講座

著者

安田俊^{1,2}、経塚標¹、野村泰久^{1,2}、藤森敬也^{1,2}、後藤あや^{2,3}、安村誠司^{2,3}、幡研一^{2,5}、大平哲也^{2,4}、阿部正文²

1 福島県立医科大学医学部産科婦人科学講座、2 福島県立医科大学放射線医学県民健康管理センター、3 福島県立医科大学医学部公衆衛生学講座、4 福島県立医科大学医学部疫学講座、5 福島県産婦人科医会

背景

2011年3月11日に東日本大震災が発生し、東京電力福島第一原子力発電所事故が起きました。私たちは、事故当時に妊娠していた女性が出産した新生児について、福島県におけるSGA（胎児が在胎週数に比べて小さい児）の発生率を調査するとともに、SGAの危険因子を解析しました。

方法

事故当時に妊娠していた女性を対象者としました。事故当時に（海辺で本原子力発電所に近い）浜通り地域に居住していた対象女性と、浜通り地域外に居住していた女性対照群に調査票を送付しました。SGAの発生率の比較を行いました。SGAの危険因子を特定するために、ロジスティック回帰分析を実施しました。

結果

全体として、325名（5.6%）の女性がSGAの胎児を出生しました。事故当時にいた地域も、その時の妊娠期間も、SGAの発生率には影響を及ぼしませんでした。妊娠高血圧症候群（PIH）が、SGA群で高かったのが特徴です。PIHは、SGAの独立危険因子であることが分かりました。

結論

東日本大震災と原子力発電所事故が、福島県におけるSGAの発生率を上昇させたという証拠は見つかりませんでした。

掲載情報

「The Journal of Maternal-Fetal & Neonatal Medicine」(2017)

Yasuda S, Kyojuka H, Nomura Y, Fujimori K, Goto A, Yasumura S, Hata K, Ohira T, Abe M

J Matern Fetal Neonatal Med. 2017 Dec; 30(24):2900-2904